

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

kansei hogo komatsu nomi
更生保護

小松能美

第18号

2025年(春号)



再犯防止推進について

副会長 杉本 雅規

令和2年度刑法犯検挙数は226,376人。内、再犯者数は110,306人で、再犯者率は48.7%です。また、新受刑者16,620人中9,640人が再入者で、その再入者率は58.0%となっています。この事実から鑑みても再犯防止は新たな被害を生まないために不可欠です。

再犯を繰り返す理由としては「仕事がない」、「帰る場所がない」、「相談できる場所がない」からと言われています。この3つの問題を解決することが再犯防止に繋がると考えられます。

まず、仕事に関してはハローワークや協力雇用主に相談することができます。小松能美には、食品製造業、グループホーム、エクステリア、建設業、土木工事、鳶等の14社の協力雇用主があります。また、矯正施設内で取得した資格を活かす仕事に就くこともあります。

次に、住居に関しては家族や親戚、友人の家に住むことが多いのですが、稀に家族にも拒絶され矯正施設に入ることもあります。他に会社の寮やアパートに入ることもあります。

最後に、相談できる場所に関してですが、何でも相談できる人や応援してくれる人がいるかどうか、特に家族の支えが一番大切です。家族が無理な場合は親戚や友人、そして私たち保護司が相談に乗り、立ち直りの支えとなることが、新たな被害者を生まない安全安心な地域社会の実現のために大事だと思います。

令和
6年度

更生保護施行75周年記念 石川県更生保護大会受彰者

- 法務大臣表彰 宮西 健吉
- 法務大臣感謝状 (社会を明るくする運動民間協力者)
チャリティ作家 北村 鶴代 (小松市)
山中 國盛 (小松市)
- 全国保護司連盟理事長表彰
山形 彰人・和田 慎司
- 石川県知事感謝状
青森 達夫・新川 賢
亀田 美穂・横山 英昭
- 「社会を明るくする運動」
石川県推進委員会委員長感謝状
チャリティ作家 八十山和代 (小松市)
- 中部地方更生保護委員会委員長感謝状
(更生保護事業推進協力者)
チャリティ作家 米田 和 (能美市)
- 中部地方保護司連盟会長表彰
井上 和代・千歩 純義・中田 桂子
- 中部地方保護司連盟会長表彰 (家族功労者)
杉本美千代 (雅規)
- 金沢保護観察所長表彰
阿戸 梨加・山本 直樹
- 石川県保護司会連合会会長表彰
片村 裕・任田 幸子・中野 佳代
安田 博之・吉田美智代

なお、中川 和信 氏が長年にわたる保護司活動従事者として、令和6年秋(令和6年11月3日)瑞宝双光章を受章されました。



【…昨年到现在いて更生保護特別講座を開催…】

令和6年度の小松能美保護区の特別講座を、昨年到现在いて保護司、更生保護女性会、BBS会を対象に10月30日、31日、11月1日の3日間開催しました。今回は、39名が参加しました。地域で発生している犯罪等について、現場での対応や取り締まりの現状、事件の裏に見える心理状態などを知ることにより、罪を犯した者の改善・更生を助けるうえでの知識を得ることを目的に開催しました。

講師に、石川県小松警察署の生活安全課長、交通課長、刑事課長の方々を順番に招き、1日目は、県内・管内の犯罪状況と傾向、事件から見える心理について、2日目は、交通事案における心理的な側面について、3日目は振込詐欺、SNS詐欺、刑事事案についての講義となりました。参加された方は、講師の言葉に真剣に耳を傾けていました。

講義の中でSNS型投資詐欺やロマンス詐欺については、身近に被害者がいて注意喚起をしているにもかかわらず、被害に遭うという事実を痛感しました。薬物乱用の実態など普段知ることのできない情報を得ることができ、少なからず更生保護活動に役立ったと思っています。



『追想 絵画と向き合って』

チャリティ協力作家(絵画) 山崎 綾乃

私が初めて通信講座『油絵入門』の資料を取り寄せて絵の具一式を手にしたのは、昭和47年7月のことでした。旧寺井駅前の広場の夕空に大きな七夕まつりの吹き流しが風に舞いあがっている、のどかな、それでいて心おどるような根上商店街のまつりの風景でした……。その後、仕事と子育てのため、絵の具一式は押し入れの中で十数年待っていました。ようやく自分の時間をみつける事が出来るようになってから、夜、皆んなが休む9時過ぎから私の時間です。

無知な私が油絵の具と調合油でドロコになりながら描いて、初めて出品したのが勤労者絵画展でした。絵を描く仲間と観に行ったのを覚えています。その後、美術協会の先生方の御指導を頂きながら「北陸女流展」、「北国女流展」、「北国現代美術展」、「一陽展」に30年余り出品を続けられたのもありがたく、家族に感謝しています。大きなまっ白いキャンバスに向かう時は、まず何を描きたいのか、どんなふうに表現するのか、構図、光と陰、空間、その他のことを真剣に考え、緊張感でいっぱいです。その時からワクワクしながら一筆、一筆と描きながら、自分の描きたい思いを表現するのが一番楽しい時間です。

心の中にあたたかい気持ちを感じてもらえるような絵が描けたらと願いながら明日に向いたいと思います。

更生保護制度75周年記念

第28回中部地方更生保護大会が富山で開催される

令和6年度の更生保護制度75周年記念第28回中部地方更生保護大会が、令和6年11月6日に富山県のオーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)で開催されました。今回は北陸で開催されたことから、当保護区からは17名の保護司が参加しました。

式典に先立ち、地元出身で高志の国文学館長(女優・絵本作家)室井滋さんの記念講演があり、室井さん自らの経験をもとにした絵本「しげちゃん」を紹介しながら他人を思いやる心の大切さを知ったことなど、ユーモアを交えながら話をされました。

式典では、天皇陛下のおことばが奉読された後、中部地方更生保護委員会委員長の表彰・感謝状が贈呈され、受賞者を代表しての謝辞がありました。来賓の祝辞に続いて大会宣言が読み上げられ、参加者全員による万歳三唱にて閉会しました。



令和6年度 石川県更生保護大会が開催される

令和6年度の更生保護制度75周年記念石川県更生保護大会が、令和6年11月26日(火)午後1時30分から石川県立音楽堂で開催されました。小松能美保護区からは、受賞者のほか13名の保護司が参加しました。

本年度は5年に一度の大会として開催され、法務大臣表彰、全国保護司連盟理事長表彰ほか数々の更生保護関係の表彰及び感謝状が被表彰者代表に贈呈されました。

式典の前には、アンサンブル金沢によるヴァイオリン、ヴィオラ、チェロによる三重奏の演奏会があり、心が落ち着く音色に浸りました。式典で小松能美保護区からは、法務大臣表彰を受賞される宮西健吉保護司ほか功労のあった方々が受賞されました。

受賞式の後、来賓の方々からの挨拶があり、更生保護活動を取り巻く環境の変化への対応や保護司の安全対応、安定的な確保に向けた取り組みなどへの期待が寄せられました。厳粛なうちに顕彰式典が終了し、最後に法務大臣、全国保護司会連合会長表彰を受賞された方々の記念撮影がおこなわれました。



叙勲受章にあたって

中川 和信



令和6年、秋の叙勲に際しはからずも瑞宝双光章の栄に浴し、身に余る光栄と感慨深く心にこみ上げて来るものがあります。昨年(令和5年)の11月14日に法務省にて伝達を受け、頂きました章を胸に付け皇居へ参内、豊明殿にて拝謁を賜り感激に目頭が熱くなるのを覚えました。その日は、お世話になりました法務省の皆さまに感謝しながら法務省を後にしました。

更生保護活動に関わったのは、BBS会に入会したことが始まりでした。保護観察の対象者との友だち活動に関わることになり、担当の保護司さんとの関係が始まりました。保護司を拝命したのは昭和63年5月でした。対象者と同じ目線に立って、話を聞く、信頼関係を築くことに心がけてきました。保護観察が無事終了するとき、これからの良き人生への期待もあり一番の喜びでありました。

この度の受章は、金沢保護観察所の観察官の方々や先輩保護司の皆さま、そして今ともに活動しています保護司会の皆さまのご指導、お力添えのたまものであり感謝しております。これからも精進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

法務大臣表彰を受けて

宮西 健吉



私は平成15年10月20日に保護司を拝命しました。それから20年余り、この度法務大臣表彰を受賞賜り、身に余る光栄と、皆様方に感謝を申し上げます。

振り返りますと市議会議員として、そんな時間を取れるのか、家族の協力を得られるのか、対象者とコミュニケーションが取れるのか、不安がある中で、最初は青少年の対象者を3、4人持たせていただきました。5、6年経った頃、対象者と面談する日を決めるのですが、私の都合で度々変更しなければならぬ。これでは対象者に申し訳ない。保護司を辞めると北分区長や会長に申し上げましたが、辞めなくてもよいと強く慰留され今日に至っています。

保護司の皆様、金沢保護観察所の皆様、本当に有りありがとうございます。

保護司会活動のパートナー

●小松地区 更生保護女性会 小松地区更生保護女性会 会長 中谷 純子

「小松地区更女として」



刑務所や施設を訪れるたび、更生や健やかな育ちの大切さを目の当たりにする。

今年度、視察研修では、石川県立児童生活指導センターを訪問。わけあって、親と一緒に暮らせない子ども達が、施設のお父さんお母さんと一緒に生活し、同敷地内の学校で学ぶという生活を送っています。夫婦で4人ほどの子ども達との生活は大変なご苦勞があると思います。働いて下さるご夫婦を公募するが、なかなか応募がないとのこと。こうした福祉関係の仕事は、私達には分からないご苦勞があるのだと再認識させられ、複雑な思いで帰路に着いたことを改めて思い出しています。こうした学びは更女であればこそで、一方で関わる方の温かさが心を温かくしてくれます。死ぬまで学びであり、奉仕させて頂くことだと先輩から教えられました。私たちに出来る事はささやかですが、学びを通してこれからも次世代に繋いでいける更女でありたいと思っています。

一年が終わろうとするいま、50周年記念誌発行作業の追い込みで忙しい日々ですし、7年度は、日更女の「地域との連携・協働推進地区」に選定、「国に一つしかない獄死者の墓守の継承とお墓の保存」活動が控えています。保護司会の皆様のご協力をお願い申し上げ、これからも共に学べる組織でありたいと願っています。

●能美地区 更生保護女性会 能美地区更生保護女性会 会長 新川 淑恵



「待つ時間はきっと誰かの変わっていく時間」～R6年度をふりかえって～

金沢市にある北陸地方唯一の少年院『湖南学院』。県内の各更生保護女性会は毎年、独自のボランティア活動を通して訪問しています。

今年度は能美地区として、読書感想文の発表会に参加させていただきました。『どうしてボクには仕事がないんだろう』『夢をかなえるゾウ』『とんび』『佐賀のがばいばあちゃん』『The MANZAI』… 貧しさ、うつ病、ニート、不器用な生き方等のことばが少年たちの感想の中に出てきましたが、ゆっくりと、一語一語を探しながら、懸命にことばを紡いでいく… その真剣な表情は真実そのものでした。そして、決して悲観することなく、どの少年も、これら一冊一冊の本に自身のこれからの人生を前向きに重ねていました。

「彼らはこれまで、学校でも社会でも褒められてこなかった。まして、みんなの代表として感想文を読むという、がんばる経験もしたことがなかった。」… 指導された教官の方のことばが胸に刺さりました。

「待つ時間はきっと誰かの変わっていく時間」これは、第74回社会を明るくする運動強調月間のスローガンです。「変わっていく時間」を一生懸命生きる少年たちと、それを支える教官の方々、そして更生保護活動に係わる人たちの「待つ時間」… 湖南学院の読書感想文発表の会は、それを改めて考えさせられる自分自身が振り返る時間でもありました。

●小松能美地区BBS会 小松能美地区BBS会 会長 北野 友希

「今年度の活動より」



今年度の小松能美地区 BBS 会の活動は天候や感染症に左右され、ハプニングが多かった1年だったように思います。

少年の主張の大会補助が2回あったのですが、1回目は会員が感染症にかかり、直前で協力会員を総入れ替えすることになり、2回目は雨で中止となりました。金沢刑務所矯正展の観察所ブースの協力は、外のテントで万華鏡づくりを予定していたのですが、直前になり豪雨になることが分かり、風で材料が飛ばされたり濡れたり影響を受ける恐れが出てきたので、慌てて木工工作に変更。当日は本当に予想通りの豪雨。能登で被害が出た日でした。

テントのなるべく内側に物を移動させるなど工夫しながらのイベント運営となりました。

他にも、児童館活動を幾つも行き、会員協力の下で充実した健全育成活動を行うことができたのですが、来年度は世の中も小松能美地区 BBS 会も災害に遭わず穏やかに活動できることをただただ願ってやみません。

社会貢献活動 令和6年度協力組織部会の活動を終えて

協力組織部会長 俵 秀雄

本年の社会参加活動は、昨年同様、小松市の安宅海岸での清掃活動となりました。昨年は前日からの強い雨と風の中、カッパを着用しての活動で時間も短縮して実施した経緯があり、天候が一番心配でありましたが、当日は大変天気も良く安心しました。

今年の参加者は久しぶりに対象者一人とその保護者、対象者担当保護司及び保護観察官、総務部会からも応援参加して頂き、総勢17名となりました。天気が良い為か皆さん黙々とゴミ拾いをしてくださいました。その結果多くのゴミを回収することが出来、その場での分別も大変な為、昨年同様自宅に持ち帰り処分することにしました。

また、当日は観光客もそぞろ歩く中、勸進帳で有名な「安宅の関」につながる海岸が綺麗になり、皆さん満足した事と思います。最後に全員で記念写真を撮り解散しました。参加者の皆さん、お疲れさまでした。



新任にあたり



伊勢 聡基 (令和6年10月10日付)

この度、人のご縁もあって保護司となりました。

私は長らく勤めた金融機関を定年退職後、大学が福祉大学ということもあり福祉の仕事我希望し、現在は主に認知症高齢者や障がい者の人たちの家計相談の仕事をしています。

更生保護と聞いてなぜか昔観た時代劇「座頭市」でのあるシーンを思い出しました。

ある寺子屋で緒形拳演じる浪人が勝新太郎演じる目の見えない座頭市が持っていた竹筒に「落ち葉は風を恨まない」と書くシーンだったのですが、今思えば更生保護がテーマだったのではないかと。

社会を恨んではならない、物事は謙虚に受け止めなさいとのメッセージが込められており、これまでの自分の境遇や人と比べられ悩んだり腹が立つことがあったらつぶやいてみてはどうでしょう。少しは気持ち楽になると思います。

これから対象となられる方の少しでも力になればと思っております。

退任にあたり

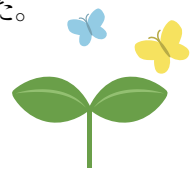


林 伸一 (令和6年10月9日付)

小松能美保護司会の事務局を担当して10年、多くの人に出会って、こんな世界があるのかと思った。人は話せばわかるし、付き合えば付き合うほど好きになるということも実感した。自己主張と痛みの共有、改めて人間関係の深さを思った。

ある時、対象者に言われた。「ただ俺の話聞いているだけで、何も俺の言うこと聴いてくれん」。「傾聴とは、寄り添うとは」と言いながら、自分中心で相手の思いをくみ取ることができなかった。16年間に担当した10人の対象者。記念にとあげた手作りの竹とんぼを飛ばしている笑顔に、自分を慰めた。

「失敗のない人生は、
それこそ失敗でございます」
(ある古老の言葉)



小松能美保護区保護観察件数等 / 2月1日現在の増減比較数

単位(件)

種別	1号	2号	3号	4号	生活環境調整
	家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	少年院から仮退院を許された者	刑務所から仮出所を許された者	刑事裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者	保護観察前に要する、身元引受人及び居住環境の適否調査と調整作業
令和6年	6	1	1	3	18
令和7年	6	1	2	5	18
増減	0	0	1	2	0

最近の保護観察件数の動向

保護観察事件も生活環境調整事件も、ここ数年では数的には大きくは変わっていない。男女の割合については、保護観察対象者には女性が2名のみであり、その他は男性が占めている。

教育現場からの声

川北町教育委員会
教育長

西田 誠一

小松能美保護司会の皆様方には、日頃より明るい社会を築くための啓発活動をはじめ、更生保護活動や青少年の健全育成に向けたご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨今、SNSを使った闇バイトの求人を通じて、若者が犯罪に手を染める報道を聞くにつけ、驚きと大きな不安を感じます。誰かに相談できなかつたのか、大変残念で悔しい思いがします。「愛」の対局は「憎しみ」ではなく「無関心」と、マザーテレサが語っていますが、社会に無関心が広がっていないことを願うばかりです。

今、学校では、個別的・協働的な学びの中に、意欲や意思、社会性などの非認知能力を育成するための様々な工夫が求められています。また、コミュニティ・スクールの推進により、地域との更なる連携も期待されています。

学校・社会教育の中で、様々な人とのつながりを大切にし、子ども達の健全な人格の形成に努めていきたいと考えています。

青少年の健全育成に向け、貴会と力を合わせ、共に進んでいけることを願っております。

終わりに、貴会の皆様のさらなるご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

小松支部だより

小松支部の令和6年度の活動状況をお伝えします。東・南・中・北の各分区ごとに研修会兼懇親会を開催しました。秋と2月の2回開催が多いようです。新任会員紹介・退任会員の慰労・行事報告・今後の行事予定を議題とし、2月は分区決算(案)や人事案件が主です。議論熱中していくとお決まりの「次、あの人(誘ったら)どうや?」とか「対象者持つとんか?」から事案概要・対処法等へと質疑が飛び交います。情報交換・共有含め率直な議論は分区・支部はもとより保護司個人としての資質向上に非常に有効なものと考えており、私自身も常に参考にさせていただいております。令和7年度も更に活発な分区会・支部活動を推進し、保護司会の発展に寄与していきたいと思っております。

〔片村 裕〕

能美支部だより

令和6年度秋の叙勲で、中川支部長が瑞宝双光章を拝受されました。また、11月3日に能美市自治功労章を受賞されました。

長年にわたり保護司として更生援護、犯罪や非行のない明るい社会づくりに努められた結果であり、この功績を記念してお祝いの会を1月23日に開催しました。席上、中川支部長からは、これまでの苦労や昔と今の対象者の面談の仕方、対応の違いなどの活動を話していただきました。その後、参加された保護司がそれぞれ近況を発表し、苦労している点について経験した保護司から助言や対処の仕方などを聞くなど、思い思いに意見交換しました。良い勉強の場となりました。

今後、支部会計の監査を受け、4月3日に理事会を開催し、4月10日に総会開催を予定しています。

〔南 裕子〕

編集後記

2月の雪と寒さで心配していた梅がようやく芽吹いてきました。皆様のご協力により第18号をお届けすることができました。感謝申し上げます。

今年は「社会を明るくする運動」75周年を迎えます。闇バイトやSNSによる詐欺事犯が後を絶たない状況ですが、関係団体との連携を一層強化して臨みたいものです。

〔新川 賢〕



※お問い合わせ 事務局

TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108

E-mail hogoshikai@aquaplala.or.jp

URL <http://hogoshikai.org>

発行日 令和7年3月25日

発行 小松能美保護区保護司会 広報部会

印刷 マルト株式会社

この印刷物は
Scope1、2のCO₂排出量
を実質ゼロとした工場
で印刷されています。